

# SONY®

## サウンドバー

取扱説明書

本機を使うための準備を  
する

音声を聞く

サウンド効果を選ぶ

BLUETOOTH®機能で音楽/  
音声を聞く

さまざまな機能を使う

困ったときは

その他



SONY

HT-S100F



# 安全のために

(→ 40 ページ～45 ページもあわせてお読みください。)

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



## 安全のための注意事項を守る

40～45 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。46 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

## 定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

## 故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にて修理をご依頼ください。

## 万一、異常が起きたら

変な音・  
においが  
したら、  
煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーサービス窓口にて修理を依頼する

## 警告表示の意味

本取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

## 注意を促す記号



火災



感電

## 行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

## 行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書とスタートガイド（別紙）をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

## 目次

基本の接続と準備	→ スタートガイド(別紙)をご覧ください。
この取扱説明書の見かた	4
箱の中身を確認する	5
本機でできること	6
各部の名称とはたらき	7
<b>本機を使うための準備をする</b>	
壁に取り付ける	14
テレビのリモコンが効かないときは	16
<b>音声を聞く</b>	
テレビや他機器の音声を聞く	17
USB機器の音楽を聞く	18
<b>サウンド効果を選ぶ</b>	
音声を調節する	20
<b>BLUETOOTH®機能で音楽／音声を聞く</b>	
モバイル機器の音楽を聞く	23
BLUETOOTH機器を操作して本機の電源を入れる	25
BLUETOOTH機能をオフにする	25

## さまざまな機能を使う

HDMI機器制御機能を使う	26
"ブラビアリンク"を使う	28
HDMI機器の接続について	28
消費電力を抑える	29

## 困ったときは

困ったときは	30
初期化する	35

## その他

主な仕様	36
再生できる音声ファイルの種類 (USB入力)	37
入力できる音声フォーマット (HDMI OUT (TV (ARC))またはTV IN (OPTICAL))	37
BLUETOOTH無線技術について	38
安全のために	40
使用上のご注意	46
保証書とアフターサービス	49

---

# この取扱説明書の 見かた

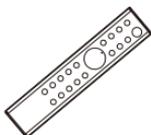
- 本書では操作の説明はリモコンを使っています。
- イラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。そのため実際の製品とは多少異なることがあります。
- 各機能の説明では、お買い上げ時の設定に下線が付けてあります。

# 箱の中身を確認する

- バースピーカー (1)



- リモコン (1)



- 単4形マンガン乾電池 (2)



- 光デジタル音声ケーブル (1)



- 電源コード (1)



- 壁掛けテンプレート (1)



- スタートガイド



- 取扱説明書



# 本機でできること

「テレビや他機器の音声を聞く」  
(17 ページ)

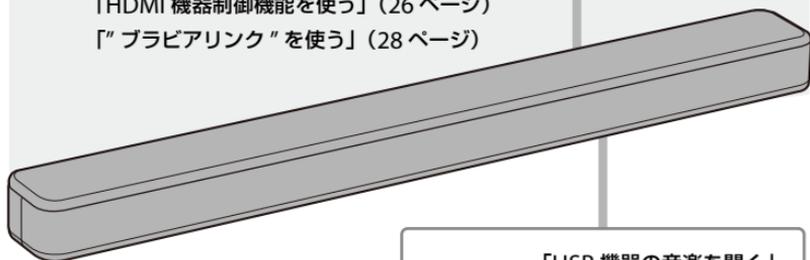


ブルーレイディスク™レコーダー、  
ケーブルテレビ (CATV) ボックス  
または衛星放送チューナーなど

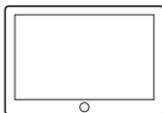


テレビをつなぐ  
(スタートガイド (別紙) をご覧ください。)

「HDMI 機器制御機能を使う」(26 ページ)  
「"ブラビアリンク"を使う」(28 ページ)



「USB 機器の音楽を聞く」  
(18 ページ)



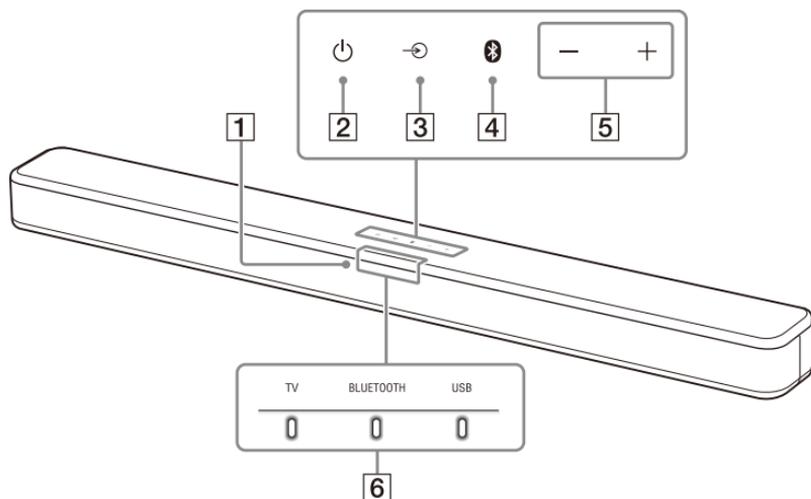
「モバイル機器の音楽を聞く」(23 ページ)

# 各部の名称とはたらき

本書のイラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。

## バースピーカー

### 正面



#### ① リモコン受光部

リモコンをバースピーカーの受光部に向けて操作してください。

#### ② 電源 (電源) ボタン

本機の電源を入れます。  
本機の電源が入っているときに押すと、本機をスタンバイ状態にします。

#### ③ 入力切替 (入力切替) ボタン (17ページ)

#### ④ BLUETOOTHボタン (23ページ)

#### ⑤ + / - (音量) ボタン

#### ⑥ ランプ

ランプについて詳しくは「バースピーカーのランプについて」(8ページ)をご覧ください。

## バースピーカーのランプについて

バースピーカーのランプの点灯や点滅は、本機の入力や入力機器の状態を表します。

ランプ	状態
TV 0	<ul style="list-style-type: none"><li>点灯：テレビ入力選択中</li></ul>
BLUETOOTH 0	<ul style="list-style-type: none"><li>点灯（青色）：BLUETOOTH接続完了（BLUETOOTH入力選択中）</li><li>速く点滅（青色）：BLUETOOTH接続待機中</li><li>ゆっくり点滅（青色）：再接続中またはペアリング実行中</li></ul>
USB 0	<ul style="list-style-type: none"><li>点灯：USB入力選択中</li><li>2回点滅：プレイモードが変更されたとき</li><li>3回点滅した後ゆっくり点滅：サポートしていない機器が繋がれているとき</li><li>速く点滅：つないだUSB機器からデータ読み込み中</li></ul>

機能設定のオン／オフ切り換え時やリモコンの操作時は以下のランプが点滅します。

ランプ	状態
TV 0	<ul style="list-style-type: none"><li>2回点滅：以下の機能をオンに設定したとき<ul style="list-style-type: none"><li>－ ナイトモード（20ページ）</li><li>－ ボイスモード（21ページ）</li></ul></li><li>1回点滅：音声切換を主音声に設定（21ページ）、サウンドモードを選択（20ページ）、または以下の機能をオフに設定したとき<ul style="list-style-type: none"><li>－ ナイトモード（20ページ）</li><li>－ ボイスモード（21ページ）</li></ul></li></ul>

ランプ	状態
USB 	<ul style="list-style-type: none"> <li>2回点滅：以下の機能をオンに設定したとき               <ul style="list-style-type: none"> <li>– ドルビー DRC (21ページ)</li> <li>– HDMI機器制御機能 (26ページ)</li> <li>– BLUETOOTHスタンバイ (25ページ)</li> <li>– BLUETOOTH機能 (25ページ)</li> <li>– 自動電源オフ (29ページ)</li> <li>– IRリピーター機能 (16ページ)</li> </ul> </li> <li>1回点滅：音声切換を副音声に設定 (21ページ)、または以下の機能をオフに設定したとき               <ul style="list-style-type: none"> <li>– ドルビー DRC (21ページ)</li> <li>– HDMI機器制御機能 (26ページ)</li> <li>– BLUETOOTHスタンバイ (25ページ)</li> <li>– BLUETOOTH機能 (25ページ)</li> <li>– 自動電源オフ (29ページ)</li> <li>– IRリピーター機能 (16ページ)</li> </ul> </li> </ul>

TV      BLUETOOTH      USB   	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回点滅：音声切換を主音声＋副音声に設定したとき (21ページ)</li> </ul>
---	--

TV      BLUETOOTH      USB   	<ul style="list-style-type: none"> <li>速く点滅：プロテクト機能作動中 (34ページ)</li> <li>ゆっくり点滅：自動電源オフ機能によって本機がスタンバイモードになっているとき (29ページ)</li> </ul>
---	---

音量調節時は以下のランプが点滅します。

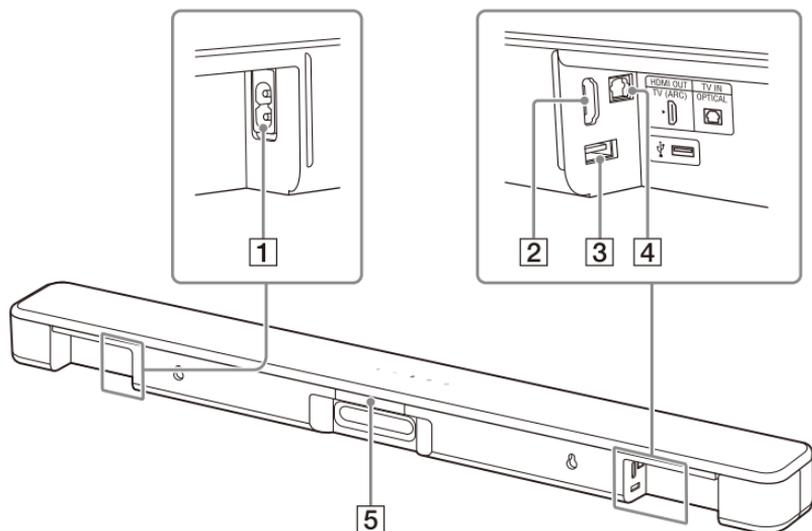
ランプ	状態
TV      BLUETOOTH      USB   	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回点滅：音量が小さく設定されているとき</li> </ul>
TV      BLUETOOTH      USB   	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回点滅：音量が中程度に設定されているとき</li> </ul>
TV      BLUETOOTH      USB   	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回点滅：音量が大きく設定されているとき</li> </ul>
TV      BLUETOOTH      USB   	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し点滅：消音されているとき</li> <li>2回点滅：音量が最大または最小になったとき</li> </ul>

### ちょっと一言

ランプボタンを押すとランプが消灯します。

ランプボタンを押してランプを消灯しても、本機を操作すると、本機の操作に関連するランプが点灯／点滅します。

## 背面



### ① AC入力端子

### ② HDMI OUT (TV (ARC)) (HDMI出力) 端子

HDMI入力端子のあるテレビをHDMIケーブルでつなぎます。本機はARC（オーディオリターンチャンネル）に対応しています。ARCとはHDMIケーブルを通して、テレビの音声をテレビのHDMI端子から本機などのAV機器に送る機能です。

### ③ USB 端子 (18ページ)

### ④ TV IN (OPTICAL) (テレビ入力 (光デジタル)) 端子

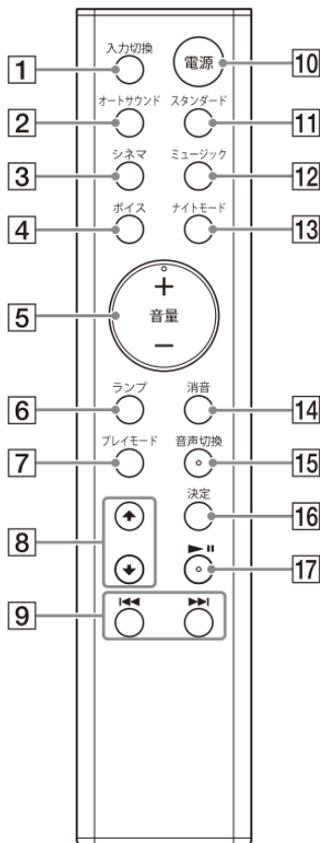
### ⑤ IRリピーター (16ページ)

バースピーカーが受けたテレビのリモコン信号をテレビに転送します。

## リモコン

ボタンを押す長さで動きが異なるボタンがあります。下記のマークはボタンを押す長さを表します。

- ：短く押します。
- ：5秒間押したままにします。



### 1 入力切換ボタン (17ページ)

本機で再生する入力を選びます。ボタンを押すと、現在選ばれている入力のランプが点滅します。もう一度ボタンを押して、入力を選びます。

押すたびに入力は以下のように切り換わります。

TV入力→BLUETOOTH入力→USB入力

### 2 オートサウンドボタン (20ページ)

サウンドモードのオートサウンドを選びます。

### 3 シネマボタン

●：サウンドモードのシネマを選びます。(20ページ)

●●●：自動電源オフ機能のオン/オフを設定します。(29ページ)

### 4 ボイスボタン

●：ボイスモードのオン/オフを設定します。(21ページ)

●●●：HDMI機器制御機能のオン/オフを設定します。(26ページ)

### 5 音量+\*/-ボタン

音量を調節します。

### 6 ランプボタン (8ページ)

バースピーカーのランプを点灯/消灯します。

- 7** **プレイモードボタン (18ページ)**  
USB再生時にプレイモードを選びます。
- 8** **▲/▼ボタン (18ページ)**  
USB再生時にテレビ画面で再生する音楽ファイルを選びます。
- 9** **◀▶/▶▶ (前へ/次へ) ボタン (18、23ページ)**  
短く押すと前または次のファイルの先頭に進みます。  
押したままにすると早戻し/早送りできます。
- 10** **電源ボタン**  
本機の電源を入れます。  
本機の電源が入っているときに押すと、本機をスタンバイ状態にします。
- 11** **スタンダードボタン**  
●：サウンドモードのスタンダードを選びます。(20ページ)  
●：IRリピーター機能のオン/オフを設定します。(16ページ)
- 12** **ミュージックボタン (20ページ)**  
サウンドモードのミュージックを選びます。
- 13** **ナイトモードボタン**  
●：ナイトモードのオン/オフを設定します。(20ページ)  
●：BLUETOOTHスタンバイモードのオン/オフを設定します。(25ページ)

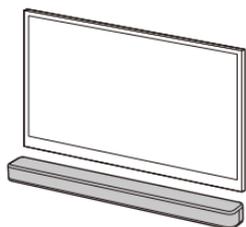
- 14** **消音ボタン**  
音を一時的に消します。  
消音状態のときに押すと消音を解除します。
- 15** **音声切替ボタン\***  
●：2か国語放送の音声を切り換えます。(21ページ)  
●：ドルビー DRC機能のオン/オフを設定します。(21ページ)
- 16** **決定ボタン (18ページ)**  
USB再生時に▲/▼ボタンで選んだ音楽ファイルを再生します。
- 17** **▶|| (再生/一時停止) ボタン\* (18、23ページ)**  
一時停止または再生を再開します。

\* 音声切替ボタン、音量+ボタン、▶|| (再生/一時停止) ボタンには、凸点 (突起) が付いています。操作の目印として、お使いください。

本機を使うための準備をする

## 壁に取り付ける

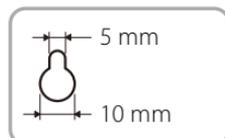
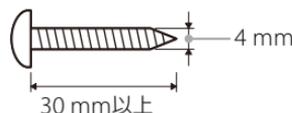
次の手順でベーススピーカーを壁に取り付けることができます。



### ご注意

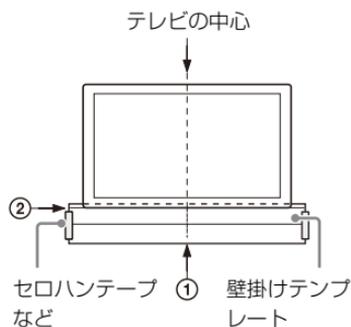
- 壁の材質や強度に合わせた市販のネジをご用意ください。壁の材質によっては破損するおそれがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。ベーススピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、ソニーは一切責任を負いません。

- 1 バーススピーカー背面の穴に合う市販のネジを2本用意する。



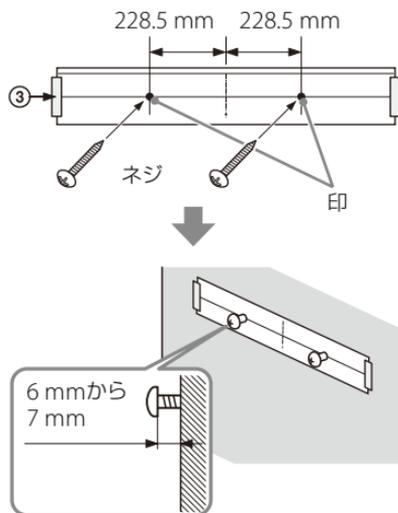
ベーススピーカー背面の穴

- 2 壁掛けテンプレート（付属）を壁に貼る。



- 1 壁掛けしたテレビの中心に壁掛けテンプレートのTVセンターライン (①) を合わせる。
- 2 壁掛けテンプレートのTV下端ライン (②) をテレビの下端に合わせ、壁掛けテンプレートを市販のセロハンテープなどで貼る。

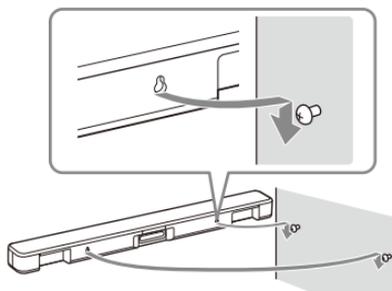
- 3** 下図のように壁掛けテンプレートのネジ取付ライン(③)上の印にネジをとめる。



- 4** 壁掛けテンプレートを取りはずす。

- 5** バースピーカー背面の穴をネジにかける。

バースピーカー背面の穴とネジの位置を合わせてから、2か所同時に取り付けてください。



**ご注意**

壁掛けテンプレートはしっかり伸ばして貼ってください。

---

# テレビのリモコン が効かないときは

バースピーカーがテレビのリモコン受光部を隠してしまい、テレビのリモコンでテレビを操作できなくなる場合があります。このようなときは本機のIRリピーター機能を有効にしてください。バースピーカーが受けたテレビのリモコン信号がテレビに転送され、リモコン操作が可能になります。

**スタンダードボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。**

---

**IRリピーター機能：オン**

USBランプが2回点滅します。

---

**IRリピーター機能：オフ**

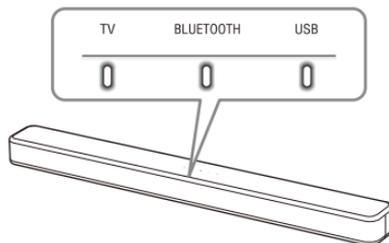
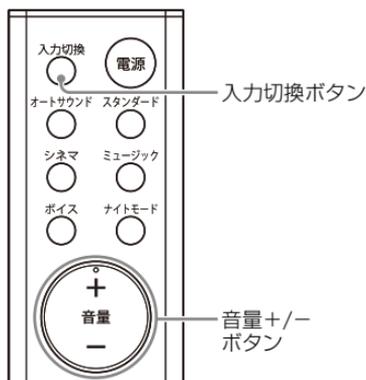
USBランプが1回点滅します。

---

## ご注意

- テレビのリモコンでテレビを操作できないことを確認してから、IRリピーター機能を有効にしてください。操作できるときにIRリピーター機能を有効にすると、テレビのリモコンからの直接の信号とバースピーカーで中継した信号が干渉しあい、正しく動作しないことがあります。
- お使いのテレビによってはIRリピーター機能が正しく働かない場合があります。その場合は、バースピーカーの位置をテレビから少し離してみてください。

# テレビや他機器の音声を聞く



## 1 入力切換ボタンを繰り返し押す。

ボタンを押すと、現在選ばれている入力のランプが点滅します。もう一度ボタンを押して、入力を選びます。

選んだ入力のランプが点灯します。

押すたびに入力は以下のように切り換わります。

TV入力→BLUETOOTH入力→USB入力

### TV入力

- TV IN (OPTICAL)端子につないだテレビ
  - HDMI OUT (TV (ARC))端子につないだオーディオリターンチャンネル (ARC) 対応のテレビ
- テレビをTV IN (OPTICAL)端子とHDMI OUT (TV (ARC))端子両方につないだ場合は、HDMI OUT (TV (ARC))端子の音声が優先されます。

### BLUETOOTH入力

A2DPに対応している

BLUETOOTH機器

詳しくは「BLUETOOTH®機能で音楽／音声を聞く」(23ページ)をご覧ください。

### USB入力

⚡(USB) 端子につないだUSB機器  
詳しくは「USB機器の音楽を聞く」(18ページ)をご覧ください。

## 2 リモコンの音量+ / - ボタンで音量を調節する。

### ちょっと一言

パースピーカーの⌂ボタンを押して入力を選ぶこともできます。

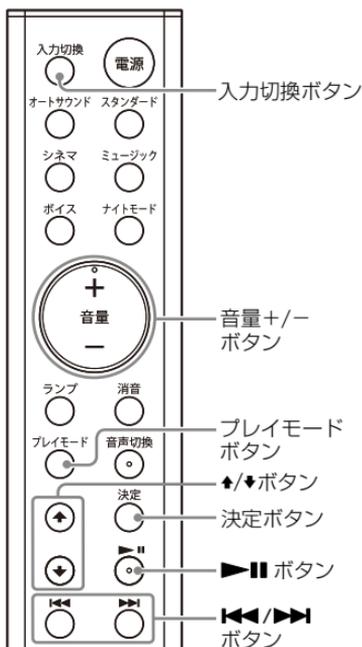
# USB機器の音楽を聞く

USB機器の音楽ファイルを再生できます。

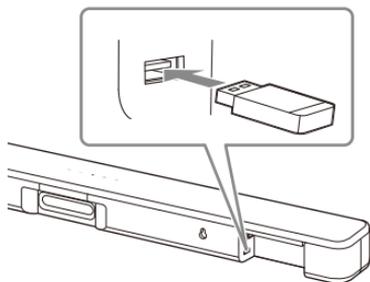
再生可能なファイルについては「再生できる音声ファイルの種類（USB入力）」（37ページ）をご覧ください。

## ご注意

- USB音楽ファイルリストをテレビ画面に表示させるために、必ず本機とテレビをHDMIケーブルでつないでください。
- テレビ側で本機をつないでいる入力を選んでください。



- 1 USB (USB) 端子にUSB機器を差し込む。



- 2 入力切替ボタンを繰り返し押し続けてUSB入力を選ぶ。

USBランプが点灯しUSB音楽ファイルリストがテレビ画面に表示されます。

- 3 ▲/▼ボタンを押して音楽ファイルを選び決定ボタンを押す。

選んだ音楽ファイルの再生を開始します。

- 4 プレイモードボタンを繰り返し押し続けてプレイモードを選ぶ。

- 表示なし：フォルダー内の全ての音楽ファイルを再生します。
- [Repeat One]：再生中の音楽ファイルを繰り返し再生します。
- [Repeat Folder]：フォルダー内の全ての音楽ファイルを繰り返し再生します。

- [Shuffle]：フォルダー内の全ての音楽ファイルをシャッフル再生します。

プレイモードボタンを押すたびに、USBランプが2回点滅します。

## 5 リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節する。

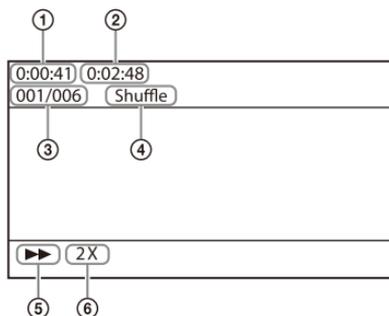
### その他の操作

こんなときは	操作
途中で止める、つづきを再生する	▶  ▶ボタンを押す。
前の音楽ファイルまたは次の音楽ファイルを選ぶ	◀◀/▶▶ボタンを押す。
早戻し/早送りする	◀◀/▶▶ボタンを押したままにする。

### ご注意

- 操作中はUSB機器を取りはずさないでください。USB機器を本機につないだり取りはずしたりするときは、データの損失やUSB機器の故障を避けるため、必ず本機の電源を切ってください。
- サポートしていない機器が繋がれている場合は、USBランプが3回点滅した後ゆっくり点滅します。
- ファイルフォーマットによって早戻し/早送りが動作しないことがあります。

## テレビ画面に表示されるUSB機器の情報について



- ① 再生時間
- ② 総再生時間
- ③ 選んだ音楽ファイルのインデックス/フォルダー内の総ファイル数
- ④ プレイモード
- ⑤ 再生状態
- ⑥ 早戻し/早送りの速度

USB機器の状態によってテレビ画面に以下のメッセージが表示されます。

- [No USB]：USB機器が繋がれていません。
- [Waiting]：つないだUSB機器からデータ読み込み中です。

### ご注意

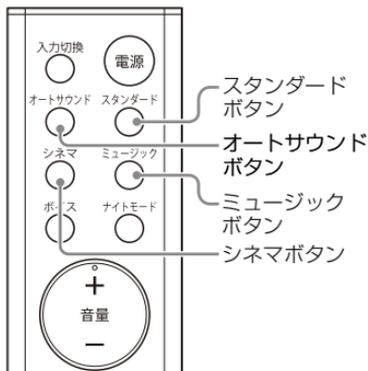
- 音楽ファイルによって表示されない情報もあります。
- プレイモードによって表示される情報は異なります。

## サウンド効果を選ぶ

# 音声を調節する

## 音源に合わせたサウンド効果に設定する（サウンドモード）

さまざまな種類の音源に合わせて調整されたサウンド効果を選べます。



オートサウンドボタンまたはシネマボタン、ミュージックボタン、スタンダードボタンを押してサウンドモードを選ぶ。

サウンドモードを選ばると、TVランプが1回点滅します。

### オートサウンド

おすすめのサウンド効果です。再生するコンテンツに合った音設定に自動的に切り換わります。

### シネマ

サラウンド効果をとめない、音の密度、豊かな広がり方を再現し、映画をみるときに最適です。

### ミュージック

音楽を聞くときに最適です。

### スタンダード

各音源に最適化されたサウンド効果です。

## 深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウンドで楽しむ（ナイトモード）

ナイトモードをオンにすると、音量の幅を圧縮して小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。

ナイトモードボタンを押してオン／オフに設定する。

ナイトモード：オン

TVランプが2回点滅します。

ナイトモード：オフ

TVランプが1回点滅します。

### ご注意

本機の電源を切ると、ナイトモードは自動的にオフになります。

## セリフを聞きやすくする（ボイス）

ボイスモードをオンにすると、セリフをクリアにして聞こえやすくします。

### ボイスボタンを押してオン／オフに設定する。

**ボイスモード：オン**  
TVランプが2回点滅します。

**ボイスモード：オフ**  
TVランプが1回点滅します。

## 音量の幅を小さくして小さい音を聞こえやすくする

この機能は、本機のTV IN (OPTICAL) 端子やHDMI OUT (TV (ARC))端子につないだ機器のドルビーデジタル信号を再生する場合のみ有効です。ドルビーDRC (Dynamic Range Control) をオンにすると、音声信号のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量の幅）を圧縮して、小さな音を聞きとりやすくします。

### 音声切換ボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。

**ドルビー DRC：オン**  
USBランプが2回点滅します。

**ドルビー DRC：オフ**  
USBランプが1回点滅します。

## 2か国語放送の音声を切り換える（音声切換）

2か国語放送は、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されているMPEG2-AAC音声方式で放送されています。

BSデジタル放送などのMPEG2-AAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタル音声ケーブル（付属）でつなぎます。

お使いのテレビのHDMI端子がオーディオリターンチャンネル（ARC）機能（26ページ）に対応している場合は、HDMIケーブル経由でMPEG2-AAC音声を聞くことができます。

また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力」の設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からMPEG2-AAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

### 音声切換ボタンを繰り返し押す。

音声が以下のように切り換わります。  
主音声 → 副音声 → 主音声/副音声

#### 主音声

主音声を再生します。  
TVランプが1回点滅します。

---

### **副音声**

副音声を再生します。  
USBランプが1回点滅します。

---

### **主音声/副音声**

主音声は左のスピーカーから、副音声は右のスピーカーから再生されます。  
TVランプとUSBランプが1回点滅します。

---

BLUETOOTH®機能で音楽  
／音声を聞く

## モバイル機器の音楽を聞く

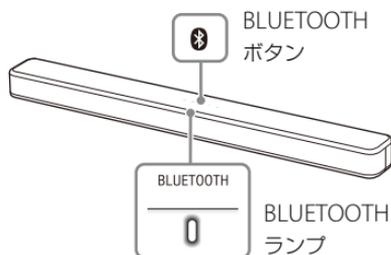
スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器とBLUETOOTH機能でつないで、モバイル機器に保存しているさまざまな音楽をワイヤレスで聞くことができます。

モバイル機器とBLUETOOTH機能でつなぐ場合は、テレビの電源を入れることなく、本機のリモコンだけでつなぐことができます。

### モバイル機器を機器登録（ペアリング）して音楽を聞く

#### 1 バースピーカーのBLUETOOTHボタンを5秒間長押しする。

本機がペアリングモードになり、BLUETOOTHランプが速く点滅します。



#### 2 モバイル機器側のBLUETOOTH機能をオンにし、機種検索をして、「HT-S100F」を選ぶ。

パスコードを要求された場合は、「0000」を入力します。

#### 3 バースピーカーのBLUETOOTHランプが青色に点灯していることを確認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

#### 4 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

バースピーカーから音声が出力されます。

#### 5 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- ▶||ボタンや◀◀/▶▶ボタンを使って再生操作ができます。

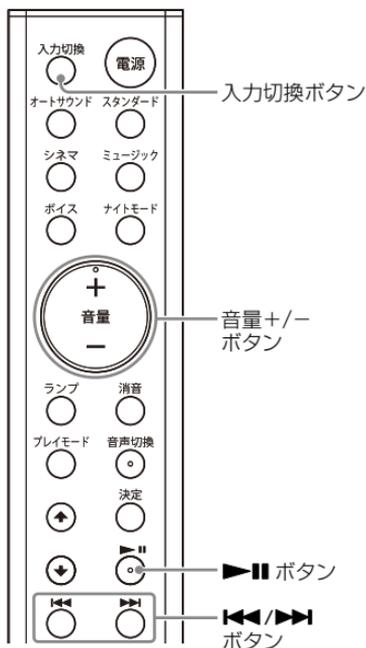
#### ご注意

- BLUETOOTH機器は8台までペアリングできます。8台分をペアリングしたあと新たな機器をペアリングすると、8台のなかで最後に接続した日時が最も古い機器のペアリング情報が、新たな機器の情報で上書きされます。
- 2台目以降もモバイル機器ごとにペアリングを行ってください。

## ちょっと一言

- BLUETOOTH機器の接続状態は、バースピーカーのBLUETOOTHランプで確認できます (8ページ)。
- BLUETOOTH入力選択中は、バースピーカーのBLUETOOTHボタンを押すと、ペアリングモードになります。

## 機器登録 (ペアリング) 済みのモバイル機器の音楽を聞く



- 1 モバイル機器のBLUETOOTH機能をオンにする。

- 2 入力切換ボタンを繰り返し押し、またはバースピーカーのBLUETOOTHボタンを押す。

BLUETOOTHランプが点滅し最後につないだBLUETOOTH機器と自動的につながります。

- 3 BLUETOOTHランプが青色に点灯していることを確認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

- 4 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

バースピーカーから音声が出力されます。

- 5 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- ▶||ボタンや◀◀/▶▶ボタンを使って再生操作ができます。

## BLUETOOTH機器を操作して本機の電源を入れる

BLUETOOTHスタンバイモードをオンにすると、本機がスタンバイ状態のときにペアリング済みのBLUETOOTH機器の操作により本機の電源を入れて音声を聞くことができます。

ナイトモードボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。

---

**BLUETOOTHスタンバイモード：オン**  
USBランプが2回点滅します。

---

**BLUETOOTHスタンバイモード：オフ**  
USBランプが1回点滅します。

---

### ご注意

BLUETOOTHスタンバイモードをオンにすると、スタンバイ時の消費電力が大きくなります。

## BLUETOOTH機能をオフにする

BLUETOOTH機能をオフにすることができます。

バースピーカーの $\odot$ ボタン、 $\ominus$ ボタン、 $-$ ボタンを10秒間長押ししてオン／オフに設定する。

---

**BLUETOOTH機能：オン**  
USBランプが2回点滅します。

---

**BLUETOOTH機能：オフ**  
USBランプが1回点滅します。

---

### ご注意

BLUETOOTH機能をオフにすると、入力切替ボタンを押して入力を選ぶときにBLUETOOTH入力はスキップされます。

さまざまな機能を使う

## HDMI機器制御機能を使う

HDMI機器制御機能\*対応のテレビやブルーレイディスクレコーダーなどの機器をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、テレビのリモコンひとつで機器の操作が簡単にできます。

HDMI機器制御機能では下記の機能が使えます。

- 電源オフ連動
- システムオーディオコントロール
- オーディオリターンチャンネル（ARC）
- ワンタッチプレイ

### ご注意

これらの機能は他社製の機器でも使える場合がありますが、動作を保証するものではありません。

\* HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

## HDMI機器制御機能の準備をする

ボイスボタンを5秒間長押ししてオン/オフに設定する。

---

**HDMI機器制御機能：オン**  
USBランプが2回点滅します。

---

**HDMI機器制御機能：オフ**  
USBランプが1回点滅します。

---

本機につないだテレビとテレビにつないだ機器のHDMI機器制御機能の設定を有効にしてください。

## 電源オフ連動

テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

## システムオーディオコントロール

テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、テレビの音声は本機のスピーカーから出力されます。テレビのリモコンで本機の音量を調節できます。

テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、テレビの音声は本機のスピーカーから出力されます。

テレビのメニューからも操作できません。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

**ご注意**

- テレビで二画面機能を使用しているときに、本機でTV入力以外を選んだ場合は、音声はテレビのスピーカーから出力されます。二画面機能を無効にすると、音声は本機のスピーカーから出力されます。
- テレビによっては、本機の音量の数字がテレビ画面に表示されます。
- テレビの設定によっては、システムオーディオコントロールが使えない場合があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビによっては、前回テレビを見たときに、音声がテレビのスピーカーから出力されていた場合は、テレビの電源を入れても本機の電源は自動的に入りません。

**オーディオリターンチャンネル (ARC)**

テレビのオーディオリターンチャンネル (ARC) 対応HDMI入力端子に本機をつないだ場合は、光デジタル音声ケーブルをつながずにテレビの音声を本機のスピーカーで聞くことができます。

**ご注意**

ARC非対応のテレビの場合は、光デジタル音声ケーブル (付属) の接続が必要です。(スタートガイド (別紙) 参照)

**ワンタッチプレイ**

テレビにつないだ機器 (ブルーレイディスクレコーダー、PlayStation®4 など) のコンテンツを再生すると、自動的に本機とテレビの電源が入り、本

機の入力はテレビに切り換わり、音声は本機のスピーカーから出力されません。

**ご注意**

- 前回テレビをみたときに、音声がテレビのスピーカーから出力されていた場合は、機器のコンテンツを再生しても本機の電源は入らずに、テレビから音声と映像が出力されることがあります。
- テレビによっては、再生途中のコンテンツの開始部分が正しく再生されない場合があります。

## “ブラビアリンク” を使う

“ブラビアリンク”対応の機器では、HDMI機器制御機能の他にオートジャンルセレクター機能を使うことができます

### ご注意

オートジャンルセレクターはソニー独自の機能です。他社製の機器では使えません。

### オートジャンルセレクター

視聴している番組情報（EPG情報）を検出し、本機のサウンドモード（24ページ）をその番組のジャンルに合わせて自動的に切り換え、最適なサウンド設定で番組を視聴できます。

この機能はテレビがオートジャンルセレクターに対応している場合に使えません。詳しくはテレビや機器の取扱説明書をご覧ください。

サウンドモードをオートサウンドにしてください（20ページ）。

### ご注意

番組情報（EPG情報）に応じてサウンドモードが切り換わるときに音が途切れることがあります。

## HDMI機器の接続 について

- 認証を受けたHDMIケーブルをおすすめします。
- ケーブルタイプロゴの明記されたソニー製のハイスピードHDMIケーブルをご利用ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。

# 消費電力を抑える

消費電力を抑えて本機を使うには、下記の設定を変更します。

## 使用状況を検知して本機の電源を切る

自動電源オフ機能をオンにすると、入力が無い状態で本機を何も操作しないまま約20分が経過すると、自動的にスタンバイ状態になります。

## シネマボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。

---

**自動電源オフ機能：オン**  
USBランプが2回点滅します。

---

**自動電源オフ機能：オフ**  
USBランプが1回点滅します。

---

## スタンバイ時の消費電力を抑える

スタンバイ時の消費電力を抑えるには、BLUETOOTHスタンバイモード(25ページ)とHDMI機器制御機能(26ページ)をオフにしてください。お買い上げ時の設定はオンです。

## 困ったときは

# 困ったときは

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

## 電源

### 電源が入らない

- 電源コードがしっかり差し込まれているか確認してください。
- 電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源を入れてください。

### 本機の電源が勝手に切れてしまう

- 自動電源オフ機能が働いています。自動電源オフ機能をオフにしてください（29ページ）。

### テレビの電源を入れても、本機の電源が入らない

- 本機のHDMI機器制御機能をオンに設定してください（26ページ）。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビのスピーカー設定を確認してください。本機の電源はテレビのスピーカー設定に連動します。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

- テレビによっては、前回テレビのスピーカーから音声が出力されていた場合は、テレビの電源を入れても本機の電源は入りません。

### テレビの電源を切ると、本機の電源が切れる

- 本機のHDMI機器制御機能の設定を確認してください（26ページ）。オンに設定している場合は、テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

### テレビの電源を切っても、本機の電源が切れない

- 本機のHDMI機器制御機能の設定を確認してください（26ページ）。テレビの電源を切ったときに、本機の電源も連動させたい場合は、オンに設定してください。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

## 映像

### 映像が出ない、正しく出力されない

- 適切な入力を選んでください（17ページ）。
- テレビの映像が出ない場合は、テレビのリモコンで見たいチャンネルを選んでください。
- HDMIケーブルを抜いて、差し直してください。HDMIケーブルは、奥までしっかり差し込んでください。

## 音声

### 本機からテレビの音声が出ない

- テレビと本機をつないでいるHDMIケーブルまたは光デジタル音声ケーブルの種類や接続を確認してください（スタートガイド（別紙）を参照）。
- テレビと本機をつないでいるケーブル類を抜き、しっかり奥まで差し込みなおしてください。続けてテレビと本機の電源コードを抜き、差し込みなおしてください。
- テレビと本機をHDMIケーブルのみでつないでいる場合は、以下を確認してください。
  - ー本機がテレビのARC対応HDMI入力端子につながれている。
  - ーテレビのHDMI機器制御機能が有効になっている。
  - ー本機のHDMI機器制御機能がオンになっている（26ページ）。
- お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応していない場合は、光デジタル音声ケーブル（付属）をつないでください（スタートガイド（別紙）を参照）。テレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応していない場合は、本機をテレビのHDMI入力端子につないでもテレビの音声は本機から出力されません。
- 入力切替ボタンを繰り返し押し、TV入力を選んでください（17ページ）。
- テレビの音量を上げる、または消音状態を解除してください。
- テレビと本機の電源を入れる順番によっては、本機が消音状態になる場合

があります。その場合は、テレビの電源を入れてから、本機の電源を入れてください。

- テレビ（ブラビア）のスピーカー設定をオーディオシステムに切り換えてください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビから出力されている音声を確認してください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機はドルビーデジタル、PCM音声、MPEG2-AACフォーマットに対応しています（37ページ）。対応していないフォーマットの音声を再生する場合は、テレビ（ブラビア）のデジタル音声出力を「PCM」に設定してください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

### 本機とテレビの両方から音声が出る

- 本機またはテレビを消音してください。

### 本機につないだ機器の音声が出ない、または音が小さい

- リモコンの音量+ボタンを押して、音量を上げてください（12ページ）。
- リモコンの消音ボタンや音量+ボタンを押して、消音機能を解除してください（12ページ）。
- 正しい入力を選んでいるか確認してください。リモコンの入力切替ボタンを押して入力を選んでください（17ページ）。
- 本機と他機器をつないでいるケーブルの端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認してください。

- アップサンプリング機能に対応している機器をつないだ場合は、アップサンプリング機能をオフにしてください。

### サウンド効果が得られない

- サウンド効果の設定と入力信号によっては、サウンド処理による臨場感が得られないことがあります。また、番組やディスクによってはサウンド成分が少ないことがあります。
- マルチチャンネルの音声を再生するには、つないだ機器のデジタル音声設定を確認してください。  
詳しくは、接続機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

## USB機器の接続

### USB機器が認識されない

- 以下を試してください。
  - ① 本機の電源を切る。
  - ② USB機器を抜いて、つなぎ直す。
  - ③ 本機の電源を入れる。
- USB機器がUSB端子にしっかりつながれているか確認してください(18ページ)。
- USB機器やUSBケーブルが破損していないか確認してください。
- USB機器がオンになっているか確認してください。
- USB機器がハブを経由して本機とつながれている場合は、USB機器をハブからはずして、本機に直接つないでください。

## モバイル機器の接続

### BLUETOOTH接続ができない

- パースピーカーのBLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください(7ページ)。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の電源が入っているか、BLUETOOTH機能が有効になっているか確認してください。
- BLUETOOTH機器を本機にできるだけ近づけてください。
- 本機とBLUETOOTH機器を再度、ペアリングしてください。BLUETOOTH機器側で、本機の登録を解除する必要がある場合があります。
- BLUETOOTH機能をオフに設定している場合は、オンに設定してください(25ページ)。

### ペアリングできない

- BLUETOOTH機器を本機にできるだけ近づけてください。
- 無線LANや他の2.4 GHz無線機器、電子レンジなどの影響を受けていないか確認してください。電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。
- 他のBLUETOOTH機器が近くにあるときはペアリングできない場合があります。その場合は、そのBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

### つないだBLUETOOTH機器の音声が本機から出ない

- パースピーカーのBLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください(7ページ)。

- BLUETOOTH機器を本機にできるだけ近づけてください。
- 無線LANや他のBLUETOOTH機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。
- USB3.0機器やその機器につながっているケーブルを本機から離してください。
- 本機とBLUETOOTH機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の位置を変えてください。
- 無線LANルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてください。
- BLUETOOTH機器側の音量を上げてください。

## 映像より音が遅れる

- 映画を見ているときは、音が映像より遅れて聞こえる場合があります。

## リモコン

### 本機のリモコンが機能しない

- パースピーカーのリモコン受光部に向けて操作してください（7ページ）。
- リモコンと本機との間に障害物を置かないでください。
- 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り換えてください。
- リモコンの正しいボタンを押しているか確認してください（12ページ）。

### テレビのリモコンが機能しない

- テレビのリモコン受光部が隠れないようにパースピーカーを設置してください。
- IRリピーター機能を有効にしてください（16ページ）。

## その他

### HDMI機器制御機能が正しく働かない

- 本機との接続を確認してください（スタートガイド（別紙）を参照）。
- テレビのHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- しばらく待ってから操作してください。本機の電源コードを抜き差ししたときは、操作が可能になるまで時間がかかります。15秒以上待ってから操作してください。
- 本機につないだ機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認してください。
- 本機につないだ機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI機器制御機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。
  - ー 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：3台まで
  - ー 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）：3台まで

- ーチューナー関連機器：4台まで
- ーオーディオシステム（AVアンプ／ヘッドホン）：1台まで（本機が使用します）

## バースピーカーのすべてのランプが点滅し消音状態になり、バースピーカーの⏻（電源）ボタンまたはリモコンの電源ボタン以外のボタンが効かない

- プロテクト機能が作動しています。バースピーカーの⏻（電源）ボタンを押して電源を切り、電源コードを抜いて以下を確認してください。
  - ー バースピーカーの通風孔がふさがっていないか確認し、しばらくしてから本機の電源を入れる。
  - ー USB機器を本機につないでいる場合は、USB機器を外してから本機の電源を入れる。正常に戻った場合は、本機の最大出力電流500 mAを超えている、またはUSB機器の異常が考えられます。

## テレビの各種センサーが正常に動作しない

- バースピーカーの置きかたによっては、バースピーカーがテレビの各種センサー（明るさセンサーなど）やリモコン受光部、赤外線方式3Dグラス対応の3Dテレビの「3Dグラス用発信部（赤外線通信）」、無線通信をさえぎる可能性があります。その場合は、各種センサーなどが正常に動作する位置までバースピーカーをテレビから離してください。各種センサーやリモコン受

光部の位置については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

## 本機が正常に動作しない

- 本機がデモモードになっている可能性があります。デモモードを解除するには、本機を初期化します。バースピーカーの⏻（電源）ボタン、+ボタン、⌂ボタンを5秒以上長押ししてください（35ページ）。

## 入力切替ボタンを押してUSB入力からTV入力に切り換えたとときに、以下のメッセージが画面に表示される

テレビのリモコンでテレビのチャンネルを選んでください。

- テレビのリモコンでテレビのチャンネルを選んでください。

# 初期化する

「困ったときは」で症状が改善されない場合は、本機を初期化してください。

- 1** バースピーカーの $\odot$ ボタン、+ボタン、 $\rightarrow$ ボタンを5秒以上同時に長押しする。  
バースピーカーのすべてのランプが3回点滅し、本機が初期化されます。
- 2** 電源コードを抜く。
- 3** 電源コードをつないで、バースピーカーの $\odot$ （電源）ボタンを押して電源を入れる。

## ちょっと一言

各機能の説明では、お買い上げ時の設定に下線がつけてあります。

## その他

# 主な仕様

## アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA\*）

フロントウーファーL/フロントウー  
ファーRスピーカーブロック：25 W ×  
2（各チャンネル8 Ω、1 kHz）  
フロントトゥイーターL/フロント  
トゥイーターRスピーカーブロック：  
25 W × 2（各チャンネル8 Ω、10 kHz）

入力

デジタル入力（TV）  
USB

出力

HDMI出力（ARC）

\* JEITA（電子情報技術産業協会）規定に  
よる測定値です。

## USB部

↓（USB）端子：  
Aタイプ（USBメモリー）

## BLUETOOTH部

出力

BLUETOOTH標準規格 Power Class 1

最大通信距離

見通し距離約10 m<sup>1)</sup>

登録台数

8台まで

使用周波数帯域

2.4 GHz 帯（2.4 GHz～2.4835 GHz）

変調方式

FHSS

対応BLUETOOTHプロファイル<sup>2)</sup>

A2DP（Advanced Audio  
Distribution Profile）  
AVRCP（Audio Video Remote  
Control Profile）

対応コーデック<sup>3)</sup>

SBC<sup>4)</sup>

対応コンテンツ保護

SCMS-T方式

伝送帯域（A2DP）

20 Hz～20,000 Hz（32 kHz、  
44.1 kHz、48 kHzサンプリング時）

- 1) 通信距離は目安です。周囲環境により通  
信距離が変わる場合があります。
- 2) BLUETOOTHプロファイルとは、  
BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標  
準化したものです。
- 3) 音声圧縮変換方式のことです。
- 4) Subband Codec の略です。

## フロントL/フロントRスピーカーブ ロック部

形式

2ウェイスピーカーシステム  
バスレフ型

使用スピーカー

ウーファー：48 mm × 90 mm コーン  
型  
トゥイーター：25 mm バランスドーム  
型

## 一般

電源

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

30 W

スタンバイ状態：2 W以下（HDMI機  
器制御機能、BLUETOOTHスタンバイ  
機能の両方またはどちらかがオン時）  
スタンバイ状態：0.5 W以下（HDMI機  
器制御機能とBLUETOOTHスタンバイ  
機能オフ時）

最大外形寸法\*（約）（幅/高さ/奥行き）  
900 mm × 64 mm × 90 mm

\* 突起部含む

質量（約）

2.4 kg

仕様および外観は、改良のため、予告なく  
変更することがありますが、ご了承ください。

## 再生できる音声 ファイルの種類 (USB入力)

フォーマット	拡張子
MP3 (MPEG-1 Audio Layer III)	.mp3
AAC	.m4a
WMA9 Standard	.wma
LPCM (2ch)	.wav

### ご注意

- ファイルのフォーマットや圧縮状況、録音状態によって再生できない、または無音で再生されることがあります。
- パソコンで編集したファイルは再生できないことがあります。
- デジタル著作権管理 (DRM) などで保護されたファイルは再生できません。
- 本機はUSB機器内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します：
  - ルートフォルダーや空のフォルダーを含め、200個までのフォルダー
  - 1つのフォルダー内の150個までのファイル
  - ルートフォルダーを含め、8階層目までのフォルダー
- USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- 本機はマスタレージクラス (MSC) 機器を認識します。

## 入力できる音声 フォーマット (HDMI OUT (TV (ARC)) またはTV IN (OPTICAL))

以下の音声フォーマットに対応しています。

- ドルビーデジタル
- Linear PCM 2ch
- MPEG2-AAC

# BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10 m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。

無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。BLUETOOTH標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

## BLUETOOTH機能の対応プロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記のプロファイルに対応しています。

- A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) : 高音質な音楽コンテンツを送受信する。

- AVRCP (Audio Video Remote Control Profile) : 再生、一時停止、停止など、AV機器を操作する。

## ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

## 通信有効範囲

見通し距離で約10 m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- 無線LANが構築されている場所
- 電子レンジを使用中の周辺
- その他の電磁波が発生している場所

## 他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE802.11b/g/n) は同一周波数帯 (2.4 GHz) を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 一本機とBLUETOOTH機器を接続するときは、他の無線LAN搭載機器から10 m以上離れたところで行う。
- 10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

### 他機器への影響

BLUETOOTH機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

### ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIGの定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できな

い、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。

- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

### 電波法に基づく認証について

本機に内蔵された無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として認証を受けています。従って、本機を使用するとき無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機に内蔵の無線装置を分解／改造すること
- 本機に内蔵の無線装置に貼ってある証明ラベルをはがすこと



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

### 内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。

→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

### 風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

### 電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

### 湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

### キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

### 雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

### 本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



禁止

### 電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
  - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
  - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
  - 熱器具に近づけない。加熱しない。
  - 移動させるときは、電源コードを抜く。
  - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- ➔ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。



禁止



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

### ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

### 大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



禁止

→ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。

### 安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も十分に確認してください。



禁止

### コード類は正しく配置する

電源コードや接続ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。十分に注意して接続、配置してください。



禁止

### 移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

### お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

### 設置上のご注意

本機の角でけがをしないようにお気をつけください。

### 可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、  
モーターやスイッチの接点、  
静電気などの火花、高温部品  
が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

### 病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

### 本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

### バースピーカーについて

機銘板は底面に貼ってあります。

# 電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

## ⚠ 危険

### 電池の液が漏れたときは

#### 素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間が経ってから症状が現れることもあります。



接触禁止

#### 必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



指示

## ⚠ 警告

### 電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。



禁止

→ 万一、飲み込んだときはただちに医師に相談してください。

### 電池を火の中に入れてない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあたるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

### 指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

## 電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱によるけがや失明を避けるため、  
下記の注意事項を必ずお守りください。

### 警告

#### ＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、  
ショートして電池が発熱や破  
裂をしたり、液が漏れたりし  
て、けがやけどの原因とな  
ることがあります。



指示

→ 機器の表示に合わせて、正しく入  
れてください。

#### 使い切ったときや、長期間使用 しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、  
過放電により液が漏れ、  
けがやけどの原因となるこ  
とがあります。



指示

# 使用上のご注意

- 次のような場所には置かないでください。
  - ー 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
  - ー チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。このような場合は、本機をそれらの機器から離して設置してください。
  - ー 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。
- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないようにください。
- 使用中に本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。
- 本機のスピーカーは、防磁型ではありません。本機の上や近くに磁気を利用したカード類は置かないでください。
- 本機の周りにテレビ以外の金属物を置かないでください。無線機能に影響が出る場合があります。

## 付属の電源コードセットについて

付属の電源コードセットは本機専用です。他の電気機器では使用できません。

## ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。



窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

## お手入れについて

キャビネットは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。

研磨パッド、クレンザー、アルコールやベンジンなどの溶剤は使わないでください。

## 本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。



2.4FH8

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は80 mです。

## 機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること

## 商標とライセンスについて

本機はドルビーデジタル\*およびMPEG-2 AAC (LC) デコーダーを搭載しています。

\* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Audio及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

BLUETOOTH®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。

本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI™) 技術を搭載していません。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

“ブラビアリンク” および “BRAVIA Link” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

Windows Mediaは米国および/またはその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。

本製品にはMicrosoftの知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoftから使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

# 保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

## 保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

## アフターサービス

### 調子が悪いときはまずチェック

「困ったときは」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

### それでも具合の悪いときはソニーの相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

### 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

### 保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

### 部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

### 部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。





型名：HT-S100F

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル …………… 0120-333-020	フリーダイヤル …………… 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話 …………… 050-3754-9577	携帯電話・PHS・一部のIP電話 …………… 050-3754-9599
	※取扱説明書・リモコン等の購入相談は こちらへお問い合わせください。

FAX (共通) 0120-333-389



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に  
「306」+「#」  
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

**HDMI**



\* 4 7 2 7 4 1 0 0 2 \* (1)